

金沢市教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(令和 6 年度執行分)

令和 7 年 11 月
金沢市教育委員会

令和 6 年度金沢市教育委員会事務管理及び執行状況の点検評価について

金沢市教育委員会は、市長が市議会の同意を得て任命した教育長及び 6 名の教育委員により組織された合議制の執行機関であり、多様化する教育ニーズに対応し、時代にふさわしい特色のある金沢の教育施策の実現を目指し、権限に属する教育に関する事務を管理執行している。

平成 27 年 4 月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化など制度の抜本的な改革が行われた。これに伴い、平成 27 年度には、市長と教育委員会で構成する総合教育会議を開催し、教育に関する諸問題について協議を行うとともに、本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」の基本理念を踏まえた「金沢市教育行政大綱」を策定した。

この度「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、令和 6 年度における教育委員会の活動及び所管事務について、その管理及び執行状況の点検評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめた。

はじめに、教育委員会の活動状況として、教育委員、教育委員会議の概要、教育委員会の活動、総合教育会議と教育行政大綱、学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画について、その具体的な内容を記述し点検評価を行うとともに、今後の方向性についても記載した。

次に、教育行政大綱の具現化に向けて、学校教育振興基本計画及び生涯学習振興基本計画の方向性等に基づき、事務事業を施策ごとにまとめ、事業の概要、実績の推移、評価した経緯等を記述し、点検評価を行うとともに、今後の課題と方向性についても記載した。

また、法により定められている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 加藤隆弘氏及び金沢市社会教育委員の北陸学院大学教授 倭希實氏から、点検評価に対する意見を頂いた。

金沢市教育委員会は、今後もこのような活動・事務に対する点検評価を行い、議会への提出や公表を通じて、教育委員会の活動を市民にわかりやすく説明していくとともに、教育委員会制度改革の趣旨に則り、教育行政における地域住民の意向のより一層の反映と教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進に取り組む所存である。

令和 7 年 11 月

金沢市教育委員会

目 次

学識経験者の意見等.....	1
令和6年度金沢市教育委員会の活動状況	
〔1〕 教育委員会（教育長及び教育委員）	3
〔2〕 教育委員会議の実施状況.....	3
〔3〕 教育委員会の活動.....	4
〔4〕 総合教育会議と教育行政大綱.....	6
〔5〕 学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画.....	8
〔6〕 点検・評価及び今後の方向性.....	10
令和6年度金沢市教育委員会施策概要及び主要事務の評価について..... 11	
学校教育振興基本計画	
【方向性1】豊かな人間性を育む教育に取り組みます	
(1) 新金沢型学校教育モデルの構築.....	13
(2) 学びの多様化学校（不登校特例校）の設置の検討.....	14
(3) いじめ・不登校・問題行動対策の推進.....	15
【方向性2】確かな学力を育む教育に取り組みます	
(1) 学校におけるICT活用の推進.....	16
(2) ものづくり教育コンソーシアムの構築.....	17
【方向性3】健康や体力を育む教育に取り組みます	
(1) 安全・安心な学校給食の提供.....	18
(2) 金沢市健康教育推進プランの実践.....	19
【方向性4】ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます	
(1) 歴史や伝統・文化等に関する教育の充実.....	20
【方向性5】特別支援教育の充実に取り組みます	
(1) 特別支援教育の充実.....	21
【方向性6】福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます	
(1) 教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）	22
(2) 児童生徒の就学援助.....	23

【方向性 7】家庭、地域と連携したひとづくりに取り組みます	
(1) コミュニティ・スクールの推進.....	24
【方向性 8】教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます	
(1) 教職員の業務適正化の推進.....	25
(2) 教職員研修の充実.....	26
(3) 学校施設整備の推進.....	27
(4) 学校規模の適正化の推進.....	28
生涯学習振興基本計画	
【方向性 1】すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます	
(1) 次期生涯学習振興基本計画の策定準備.....	29
(2) 地区公民館における持続可能な地域づくり.....	30
【方向性 2】青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます	
(1) 家庭教育支援の推進.....	31
(2) 金沢子ども読書推進プランの推進.....	32
【方向性 3】市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます	
(1) 地域コミュニティ活性化推進事業の充実.....	33
(2) ボランティアによる図書館運営・企画への参加.....	34
【方向性 4】学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に取り組みます	
(1) 地区公民館の施設等整備.....	35
(2) キゴ山宇宙教育の推進.....	36
(3) キゴ山里山教育・里山交流の推進.....	37
(4) 図書館機能の充実.....	38
【方向性 5】金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます	
(1) かなざわ市民アカデミーの開催.....	39
(2) 地域を学ぶ事業の実施.....	40
用語等説明.....	41

学識経験者の意見等

金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授
加藤 隆弘

本報告書は、令和 6 年度における金沢市教育委員会の活動報告、及び金沢市の学校教育振興基本計画・生涯学習振興基本計画（平成 27 年策定令和 3 年改定）に関する事業について点検と評価が行われたものである。令和 6 年度は元日に発生した能登半島地震に関わる影響や支援活動等が続く中、各事業は着実に実施されたことが報告からうかがえる。

金沢市教育委員会の活動について、教育委員会議、総合訪問等が適切に実施されている。そのほか、令和 6 年 10 月には、災害時の諸対応について、気仙沼市教育委員会への行政視察・調査が実施されている。平成 23 年の東日本大震災で甚大な被害を被った気仙沼市は、その後防災教育や地域を学びの場とした持続可能な開発のための教育（ESD）に積極的に取り組み、UNESCO の会議でもその取組を発表するなど、この分野で最も先進的に取り組む地域・教育委員会の一つである。これを契機に、気仙沼はじめ各地の先進的取組に学びつつ、学校・地域での防災・地域学習の進化、地域と学校教育のレジリエンス強化に向け、金沢市ならではの取組を進めていただきたい。

実施事業については、22 の事業が「A」の評価であり、6 の事業が「B」の評価となっている。「B」評価となった取組の報告について、なぜ「A（十分達成）」ではなく「B（概ね達成）」となつたのか、令和 5 年度報告に比べてわかりづらい記述となっているように感じた。昨年度に比べて B 評価の項目が増えているが、これは正当に点検・評価が行われた証とも言える。今後も点検・評価を生かした事業の改善に取り組んでいただきたい。

実施された事業について、新規事業として取り組まれた「新金沢型学校教育モデルの構築」に着目する。災害や気候変動、価値の多元化や対立、科学・情報技術等の急速な発展変化など、「答えない問い合わせ」に向き合い、未来を創る子どもたちを育てるため、「新金沢型学校教育モデル」を構築し、令和 7 年度の実施に向け計画、周知等に取り組んだ。これから時代を見据えた「自学・共創の学び」を通じて、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を培い、新たな価値、最適解を見いだす創造力を育む事を目指す、大変意欲的な教育モデルである。実施に際しては、教職員研修の充実、学習環境の整備、カリキュラム・マネジメントの実施や生じた課題と工夫についての情報共有などを行い、必要に応じて見直しを行うなど柔軟に対応し、よりよいモデルとなるよう取り組んでいただきたい。

いずれの事業も、これから社会をよりよく創造する私たちには欠かせないものである。実施の実情を捉え、より良くなりそうな事柄があれば思いきってチャレンジする、そのような創造の取組を行うためにも、この点検評価を有効に活用いただきたい。

北陸学院大学人間総合学部教授、金沢市社会教育委員
俵 希實

令和 6 年度も多くの事業が実施された。評価をみると、28 事業のうち 22 事業が「A」評価で一定の成果を出しているといえよう。ここではさらなる成果を求めて、「B」評価となっている事業の課題を検討したい。

学校教育振興基本計画の方向性等に基づいた事業では「金沢市健康教育推進プランの実践」のみ「B」評価である。この事業は継続事業で、令和 5 年度は「A」評価であった。金沢市は「金沢市健康教育推進プラン」を 5 年ごとに見直している。令和 6 年度からの「金沢市健康教育推進プラン 2024 策定事業」ははじまったばかりであることから令和 10 年度に向けて着実に取り組んでいくことが求められている。

生涯学習振興基本計画の方向性等に基づいた事業では、「地区公民館における持続可能な地域づくり」、「地域コミュニティ活性化推進事業の充実」、「ボランティアによる図書館運営・企画への参加」、「キゴ山里山教育・里山交流の推進」、「かなざわ市民アカデミーの開催」が「B」評価である。

「地区公民館における持続可能な地域づくり」および「地域コミュニティ活性化推進事業の充実」は公民館に関わる事業で、地域コミュニティの活性化に直結する内容であるが、どちらの事業においても参加者の拡大が課題となっている。地域コミュニティの活性化については金沢市においてしばしば検討されているが、その際に必ず課題となるのが、担い手不足と行事等参加者数の減少である。少子高齢化が進展しているなかで解決は容易ではないが、現代社会に合った運営方法や企画内容を考えていくことが、担い手および参加者の拡大にプラスの影響を与えると思われる。「ボランティアによる図書館運営・企画への参加」については、ボランティア活動実績における活動延べ人数が若干減少している。ボランティア活動を維持していくためには、その活動内容（図書館事業）に関心を持つてもらうことは必要だが、すでに活動内容（図書館事業）に関心を持っている人々に事業を周知し、参加を促していくことも不可欠である。「キゴ山里山教育・里山交流の推進」への参加者数は令和 4 年度からほぼ横ばいとなっている。「今後の課題と方向性」で示されているのは、里山教育の創り手の育成である。この事業においてもいわゆる担い手の問題を抱えているようである。学生ボランティアの協力を得ているようだが、ボランティアについては前述した図書館事業と同様のことがいえよう。今後はボランティアを含め担い手の育成が急がれる。「かなざわ市民アカデミーの開催」については、受講者数が令和 5 年度の約 40% に減少している。原因はここではわからないが、テーマをさらに検討してもよいかもしれない。「金沢が誇る地域文化や新たなジャンルからテーマを取り上げ」と事業概要に示されているが、これに合致し、かつ市民の関心のあるテーマを選定することとなる。選定方法は複数あるが、たとえば、一般的にイメージされている金沢文化に囚われず、金沢市民が誇る金沢の文化とは何かについてデータ収集を行い、丁寧に分析、検討していくことが考えられる。

以上から、事業を実施していく上での課題は、担い手の育成、現代社会に合った運営方法、事業の周知、市民の関心に基づいた企画といえるだろう。どの課題もすでに検討を重ねていると思うが、今後も考え続けていく努力が必要であろう。

令和6年度金沢市教育委員会の活動状況

〔1〕教育委員会（教育長及び教育委員）

令和6年4月1日～令和7年3月31日

職名	氏名	任期	職業
教育長	野口 弘	R 4. 4. 1～R 7. 3. 31	(教育長)
教育長職務代理	田邊俊治	R 3. 10. 3～R 7. 10. 2	大学名誉教授
委員	大島淳光	R 6. 4. 1～R 10. 3. 31	会社社長
委員	丸山章子	R 2. 10. 1～R 6. 9. 30	大学教授
委員	木村陽子	R 5. 1. 1～R 8. 12. 31	邦楽家
委員	長澤裕子	R 5. 10. 2～R 9. 10. 1	弁護士
委員	櫻吉啓介	R 2. 10. 1～R 6. 9. 30	医師

〔2〕教育委員会議の実施状況

1. 開催回数

定例会議：12回（原則として毎月第3水曜日）

臨時会議：7回（隨時）

2. 付議件数

区分	内容	件数
議案	規則等に関すること	8
	議会の議決を経るべき議案に関すること	5
	人事に関すること	6
	教科用図書の採択に関すること	6
	委員の委嘱等に関すること	8
	教職員研修に関すること	1
	その他	7
	計	41
報告		20
その他		15

3. 運営上の工夫

(1) 資料の事前配付

事前に内容についての検討等の準備を行うために、会議開催日の3日前までに議案書や資料等を送付した。

(2) 公開

会議は、人事に関することや教育委員会に決定権のない案件、個人情報を含む案件等一部の非公開案件を除き、すべて公開で行うとともに、会議終了後、議案書及び関係資料並びに会議録について、金沢市のホームページにおいて公開している。

* 非公開案件：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書（人事に関する事件その他の事件について、教育長又は委員の発議により、出席者の三分の二以上の多数で議決したとき）に基づき非公開とされた案件

〔3〕教育委員会の活動

1. 学校訪問（総合訪問）

(1) 概要

学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況について把握するため、教育委員会のほか、教育委員会事務局の各課職員がそろって訪問する総合訪問を実施している。

原則として、学校ごとに小・中・高等学校ともに3年に1回の頻度で実施し、全ての学校を訪問する。

(2) 総合訪問における教育委員会の訪問内容

・校長からの学校の概要説明

学校評価に基づく学校の課題と具体的な取組み等について

・教育委員会事務局からの学校の状況説明

・授業参観

・全教職員との意見交換と指導・助言 等

(3) 令和6年度の総合訪問実施状況

小学校	17校
中学校	7校
小中併設校	0校
高等学校	0校
教育委員会の延べ訪問者数	43人

2. 教育委員会連絡会

平成 21 年度より、原則として定例教育委員会議終了後に、教育施策に関する情報収集、意見交換、また教育委員会事務局職員との意見交換の場として実施している。

- ・各課所の重点事項、懸案事項等についての意見交換
- ・市議会報告
- ・他機関会議報告 等

3. 行政視察・調査及び研修等

(1) 行政視察・調査

目的：他都市の先進的な取組を今後の教育施策の参考とする

期日：令和 6 年 10 月 23 日（水）～24 日（木）

視察先及び視察・調査内容

- ・気仙沼市教育委員会
- 災害時の児童生徒の受け入れ支援に関する事項

(2) 全国、東海北陸地区、石川県教育委員会連合会の関係行事、研究大会、研修会への参加

- ・全国市町村教育委員会連合会会长就任（田邊教育委員、任期 10 年目）
- ・東海北陸六県市町村教育委員会連合会理事総会
- ・石川県市町教育委員会連合会定期総会
- ・石川県市町教育長研修会
- ・石川県市町新任教育委員研修会 等

(3) 全国都市教育長協議会、中核市教育長会、東海北陸都市教育長協議会への参加

4. その他

(1) 金沢市、金沢市教育委員会、各学校等主催行事、会議等への出席

- ・第 74 回高峰賞授与式
- ・第 40 回宮村英語奨励賞授与式
- ・第 45 回岡文化賞授与式
- ・小学校、中学校、市立工業高等学校卒業式 等

(2) 選考

- ・市立工業高等学校教員採用候補者
- ・市立小中学校管理職（校長・教頭）候補者

〔4〕総合教育会議と教育行政大綱

1. 金沢市総合教育会議の開催

平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で構成される会議であり、教育行政に関する大綱の策定や教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じた教育の振興を図るための講すべき施策等について協議、調整を行い、より一層民意を反映した教育行政の推進を図る。

（1）会議の概要

- ・会議は、市長が主宰する。
- ・会議において調整が行われた事項については、結果を尊重しなければならない。
- ・会議は、原則公開する。ただし、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき等はこの限りでない。
- ・会議の終了後、議事録を作成し、ホームページへの掲載等により原則公表する。ただし、会議を非公開で実施した部分についてはこの限りでない。

（2）開催日及び協議題

- ・令和6年7月25日
「能登半島地震を受けての学校の対応について」
- ・令和7年2月12日
「休日の中学校部活動の地域移行について」

2. 金沢市教育行政大綱の策定（平成 27 年 10 月）

金沢の教育振興基本計画として、「学校教育」を通した「ひとづくり」、「生涯学習」を通した「ひと・まちづくり」を進めるため、金沢市学校教育振興基本計画及び金沢市生涯学習振興基本計画に掲げた施策の方向性を体系的に整理し、わかりやすい言葉で表現した 5 つの基本方針を掲げた「金沢市教育行政大綱」を総合教育会議において市長と教育委員会が協議、調整し、平成 27 年 10 月に策定した。

基本方針

「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」の両計画を体系的に整理し、学校教育と生涯学習を通じて、「ひと・もの・こと（人材、教育、学習、環境など）」を「育てる（育成）・整える（充実）・高める（向上）・支える（支援）・進める（推進）」ことをめざし、5 つの基本方針を定める。

1. 未来を担う人材の育成

2. 特別支援教育の充実

3. 家庭・地域の教育力の向上

4. 生涯を通じた学びの支援

5. 教育・学習環境整備の推進

〔5〕学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画

1. 金沢市学校教育振興基本計画の策定（平成27年1月）

本市学校教育の一層の振興を図るため、中長期の視点に立った学校教育のめざすべき姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」を平成27年1月に策定し、令和3年3月には社会情勢を踏まえた新たな視点を盛り込み改定を行った。また、計画に掲げる「めざすべき金沢の子ども像」をわかりやすく、覚えやすい言葉で表現するため、中学生によるプロジェクト活動により、子どもたちの考え方や行動の基本的な約束事「金沢子どもかがやき宣言」を制作した。

基本理念

明日を拓き 社会を担う 金沢発のひとづくり ～『心』と『力』を育む学校教育～

めざすべき金沢の子ども像

本市の学校教育を通して、明日を生き抜き、社会を担うために必要となる多様な「心」と「力」を身に付けてほしいことから、より具体的な言葉で6つの子ども像を示した。

- (1) 自ら学び、自ら考え、創造する子
- (2) 正しく判断し、責任を持って行動する子
- (3) 自他ともに認めあい、お互いを高めあう子
- (4) 心身ともに健康で、たくましく生きぬく子
- (5) 夢を抱き、何事にも粘り強く挑戦する子
- (6) 金沢に誇りを持ち、ふるさとを愛する子

金沢子どもかがやき宣言

金沢子どもかがやき宣言

わたくしたちは、
ふるさと金沢を愛し、誇りを持ち、
未来に向かってかがやくように行動します

一 すすんで学び、考えます
二 きまりや約束を守ります
三 すすんで、きつをします
四 笑顔を大切にします
五 思やりの心を大切にします
六 ありがとうの気持ちを伝えます
七 毎日元気にすごします
八 夢に向かって挑戦します

2. 金沢市生涯学習振興基本計画の策定（平成 27 年 9 月）

金沢市における生涯学習の一層の振興を図るため、今後 10 年間（平成 28 年度～令和 7 年度）の生涯学習のめざすべき姿や施策等を明らかにした、「金沢市生涯学習振興基本計画」を平成 27 年 9 月に策定し、令和 3 年 3 月には社会情勢の変化を踏まえた新たな視点を盛り込み、改定を行った。

基本理念

ともに学び ともに拓く 創造性あふれる 金沢のひと・まちづくり

めざす学びの姿

本計画では、「金沢市民憲章」（昭和 54 年 5 月）が提唱する 5 つの目標を「学び」に取り組む姿として示すとともに、これらを市民と行政がともにめざす基本目標として位置づけている。

- （1）社会の変化に対応し、新たな自己を開拓することのできる学び
- （2）健康で生きがいのある暮らしのために楽しみながら取り組むことのできる学び
- （3）ふるさとを愛し、人を思いやる豊かな心を持つことのできる学び
- （4）仲間とともに手をつなぎ、課題を共有し、解決することのできる学び
- （5）金沢の伝統・文化を活かした個性あるまちを創ることのできる学び

〔6〕点検・評価及び今後の方向性

- ・ 教育委員会議については、会議開催3日前までの資料の配付や教育委員会連絡会の開催を通じて審議内容について事前に情報提供を行うことで、活発な議論及び意見交換を推進しながら、慎重かつ十分な審議を行った。
引き続き、会議の公開、ホームページでの会議録等の公開等により教育行政の透明化及び情報発信に努める。
- ・ 総合訪問については、原則として、小・中・高等学校ともに3年に1回の訪問を行っており、令和6年度は、小中学校24校において実施した。定期的な訪問により、各学校の運営方針や活動状況に加え、教育施設の環境等を確認することで、教育施策の推進に取り組む上で重要な教育現場の状況把握に役立つことができた。
今後も、教職員等との意見交換の機会をさらに確保し、教育現場の実情を反映した各種施策を展開していく。
- ・ 年々多様化、複雑化する教育行政課題に対し、施策を効果的かつ適切に推進していくためには、課題への理解を十分に深めた上で取り組むことが求められる。総合教育会議や教育委員会議に諮る案件のうち、特に重要な案件については、事前に連絡会を開催し、課題に対する現状報告や資料提供、協議を行い、活発な意見交換となるよう努めた。
今後も、連絡会を活用し、積極的な情報共有を図っていく。
- ・ 行政視察では、気仙沼市の事例について理解を深め、教育委員会としての知見を広めた。また、教育委員会連合会の活動においては、県内各市の動向だけでなく、全国組織の会長を務めている教育委員もいることから、国の動向をはじめとする全国規模の教育行政にかかる情報収集を迅速かつ的確に行うことができた。
引き続き、他都市の取り組みに触れる機会を設けることで、より一層の自己研鑽を積めるよう努めていく。
- ・ 総合教育会議については、今日的課題について市長と活発な意見交換を行った。
引き続き、この会議において策定した「金沢市教育行政大綱」、また、本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」を実践し、教育行政に関する施策を総合的に推進する。

令和6年度金沢市教育委員会施策概要及び主要事務の評価について

事務管理及び執行状況については、教育行政大綱の具現化に向け、学校教育振興基本計画及び生涯学習振興基本計画の方向性等に基づいた28の実施事業について、その「事業概要」、「実績」、「点検・評価」及び「今後の課題と方向性」を示し、次のA～Dの4段階で評価を実施しました。

評価区分	評価結果（全体）
「A」：十分達成できた	22事業（22事業／28事業：78.6%）
「B」：おおむね達成できた	6事業（6事業／28事業：21.4%）
「C」：やや不十分であった	0事業（0事業／28事業：0%）
「D」：達成できなかった	0事業（0事業／28事業：0%）

実施事業の評価は以下のとおりです。

金沢市学校教育振興基本計画

【方向性1】豊かな人間性を育む教育に取り組みます

- (1) 次期金沢型学校教育モデルの構築
- (2) 学びの多様化学校（不登校特例校）の設置の検討
- (3) いじめ・不登校・問題行動対策の推進

評価
A
A
A

【方向性2】確かな学力を育む教育に取り組みます

- (1) 学校におけるICT活用の推進
- (2) ものづくり教育コンソーシアムの構築

評価
A
A

【方向性3】健康や体力を育む教育に取り組みます

- (1) 安全・安心な学校給食の提供
- (2) 金沢市健康教育推進プランの実践

評価
A
B

【方向性4】ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます

- (1) 歴史や伝統・文化等に関する教育の充実

評価
A

【方向性5】特別支援教育の充実に取り組みます

- (1) 特別支援教育の充実

評価
A

【方向性6】福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます

- (1) 教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）
- (2) 児童生徒の就学援助

評価
A
A

【方向性 7】家庭、地域と連携したひとづくりに取り組みます

- (1) コミュニティ・スクールの推進

評価
A

【方向性 8】教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます

- (1) 教職員の業務適正化の推進
(2) 教職員研修の充実
(3) 学校施設整備の推進
(4) 学校規模の適正化の推進

評価
A
A
A
A

金沢市生涯学習振興基本計画

【方向性 1】すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に

取り組みます

- (1) 次期生涯学習振興基本計画の策定準備
(2) 地区公民館における持続可能な地域づくり

評価
A
B

【方向性 2】青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます

- (1) 家庭教育支援の推進
(2) 金沢子ども読書推進プランの推進

評価
A
A

【方向性 3】市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます

- (1) 地域コミュニティ活性化推進事業の充実
(2) ボランティアによる図書館運営・企画への参加

評価
B
B

【方向性 4】学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に取り組みます

- (1) 地区公民館の施設等整備
(2) キゴ山宇宙教育の推進
(3) キゴ山里山教育・里山交流の推進
(4) 図書館機能の充実

評価
A
A
B
A

【方向性 5】金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます

- (1) かなざわ市民アカデミーの開催
(2) 地域を学ぶ事業の実施

評価
B
A

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます	
1. 事業名		
新規	新金沢型学校教育モデルの構築	
2. 事業概要（目標、目的）		
○	予測困難な変化や急速に進行する多様化に対応し、未来を創るために必要な力を身に付けた金沢の子供たちを育成するため、新しい時代が求める学びの在り方を踏まえた新金沢型学校教育モデルを構築する。	
3. 実績		
○	<p>新金沢型学校教育モデル構築事業（事業費：3,388千円） 「次期金沢型学校教育モデル構築会議」において検討を進め、令和6年度中に構築し、令和7年度の円滑な実施に向けて種々準備を進めるとともに、モデルの内容等について周知することができた。</p> <p>(参考) 新金沢型学校教育モデルの構築・周知について 構築会議委員 15名（学識経験者、経済・文化関係者、保護者・地域関係者等で構成） 検討経過（令和5年度から継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回 次期金沢型学校教育モデル構築会議（令和6年5月30日） 新金沢型学校教育モデル（答申案）について協議 ・委員から教育長へ答申書提出（令和6年6月7日） ・文教消防常任委員会及び定例教育委員会議（令和6年6月）で新モデル報告 ・授業時数特例校等の申請（令和6年8月）・指定通知（令和7年2月） ・リーフレット及び新モデルを校長・教務・研究連絡会にて周知（令和7年1月） ・金沢探究スタイルガイドブックを作成・配付（令和7年3月） <p>※新金沢型学校教育モデルの概要 新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、児童生徒が「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考え、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す創造力を育む新たな学校教育モデルであり、3つの要素（金沢ベーシックカリキュラム、金沢探究スタイル、金沢リフレクション）で構成される。</p>	
4. 点検（分析）・評価		
○	新金沢型学校教育モデルを構成する3つの要素（金沢ベーシックカリキュラム、金沢探究スタイル、金沢リフレクション）について、検討委員会や事務局等で内容を計画通りに決定し、モデルを構築することができた。	
○	リーフレットやオンデマンド動画で教職員、児童生徒、保護者、地域の方々へ周知することができた。また、令和7年度の円滑な実施に向け、校長・教務主任・研究主任を対象にオンライン連絡会を開催し、質疑応答を行うなど丁寧に説明し、新モデルの確実な理解につなげることができた。	
	評価	A
5. 今後の課題と方向性		
○	学校訪問を通じて、新金沢型学校教育モデルを構成する3つの要素の取組状況を把握し、確実な実施及び質的向上に向けた指導助言を行う。	
○	デジタル科の実践・検証を行い、改善を加えていく。	

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
1. 事業名	
新規	学びの多様化学校（不登校特例校）の設置の検討
2. 事業概要（目標、目的）	
○	不登校児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えるため、文部科学省が取りまとめた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を踏まえた金沢市における学びの多様化学校の設置について検討する。
3. 実績	
○	不登校特例校設置検討事業（事業費：389千円） 3回にわたる「学びの多様化学校設置検討委員会」を開催し、設置に向けて検討を進めることができた。 (参考) 学びの多様化学校設置検討委員会 委員 8名 (学識経験者、保護者、不登校支援団体関係者、学校・教育委員会関係者) 検討経過 第1回検討委員会（令和6年5月31日） ・本市における学びの多様化学校の設置が必要か ・本市に設置する場合どのような点を検討すべきか 第2回検討委員会（令和6年8月26日） ・金沢市における学びの多様化学校の設置の必要性について協議 ・金沢市に設置する場合の検討課題について協議 第3回検討委員会（令和6年10月30日） ・答申案の協議 ※令和6年11月11日に検討委員から教育委員会へ答申が提出 同日、市長へ報告 不登校児童生徒及びその保護者に対するアンケート調査を実施 (令和7年2月17日～2月28日)
4. 点検（分析）・評価	
○	答申の総論では、「不登校支援の選択肢が増える観点から設置することが望ましいが、設置する場合には、校種、教育課程、関係機関との連携、立地環境、施設や設備、人材の確保、不登校児童生徒やその保護者等の実態把握等に留意して、更に議論を深めることが必要である」と示され、委員会の検討内容について総括することができた。
	評価 A
5. 今後の課題と方向性	
○	学びの多様化設置検討委員会からの答申並びに不登校児童生徒やその保護者等のアンケート結果を踏まえ、令和7年度は、金沢市における学びの多様化学校の基本構想の策定について協議を進める。

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
1. 事業名	
継続	いじめ・不登校・問題行動対策の推進
2. 事業概要（目標、目的）	
<p>○ 金沢市いじめ防止基本方針に基づき、いじめ・不登校・問題行動等における未然防止、早期発見、早期解決に向け、生徒指導支援室が中心となり、関係機関と連携しながら、学校や保護者からの相談等に迅速かつ適切に対応することにより、いじめを許さない学校づくりへの取組を強化する。</p>	
3. 実績	
<p>○ 生徒指導支援室における年間対応事案件数（506件）</p> <p>○ 校内教育支援センター支援員派遣事業（事業費：51,354千円） 別室登校の児童生徒に対する学習支援・相談業務を担った。</p> <p>○ 心の絆サポーター派遣事業（事業費：6,033千円 支援時間：2,760H）</p> <p>○ 危機管理アドバイザーの派遣 定期・要請による学校訪問や犯罪行為等への指導助言を行った。</p> <p>○ ネットいじめ防止講演会の実施 児童生徒を対象に、ネット上のいじめやトラブルを未然に防ぐため、全校で専門家による講演会を実施した。</p> <p>○ 各種アンケート（WEBQU、いじめ、携帯電話・インターネットアンケート）の実施 不登校やいじめの未然防止、早期発見・早期対応及び好ましい人間関係づくりをめざすため、各種アンケートを実施し実態把握を行った。</p> <p>○ 不登校対策連絡会、法的対応力向上連絡会の実施 不登校に対する組織的な取組と対策の推進及び管理職等が法的事案への基礎的知識と対応力を身に付けられるよう、大学教授や弁護士による研修会を開催した。</p>	
4. 点検（分析）・評価	
<p>○ WEBQUを実施することで、児童生徒の実態を迅速に把握し、不登校やいじめの未然防止、早期発見・早期対応を図ることができた。また、校内教育支援センター支援員の配置時間数を増やし、適切に配置することで、支援室登校児童生徒数へのカウンセリング機能や学習支援が強化できた。</p>	
5. 今後の課題と方向性	
<p>○ 令和7年度から、校内教育支援センター支援員をすべての小・中学校に配置するとともに、中学校においては、登校時間から下校時間まで支援員を常駐できるよう、配置人数、配置時間を拡充し、児童生徒への実効性ある支援を進める必要がある。</p>	

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性2 確かな学力を育む教育に取り組みます
1. 事業名	
継続	学校におけるICT活用の推進
2. 事業概要（目標、目的）	
○	国の大規模スクール構想に伴い、令和時代のスタンダードとして学校ICT環境を整備し、公正に個別最適化され、AIに代替されない創造性を育める学びの場の実現に向け、小・中学校の児童生徒に1人1台端末を配備するとともに、その活用に必要な通信ネットワークを整備する。 令和2年度より小学校学習指導要領にてプログラミング教育が必修となったことを受け、全児童にプログラミングを楽しみながら、論理的思考・想像力・問題解決能力を育むことを目的とした本市独自のプログラミング教育を実施する。
3. 実績	
○	ICTを活用した授業の実践 各学校の大規模推進リーダーが参加する連絡会の開催や、実践事例集「金沢型StuDXStyle」の作成を通じ、1人1台端末をより効果的に活用した授業を全市的に実践した。
○	GIGAスクール運営支援センターの設置・運営 学習用端末のより円滑な運用を支援するための体制を整備した。 <ul style="list-style-type: none">・ICT支援員の派遣を月3回から月4回に拡充し、1人1台端末等が効果的に活用できるよう、学習用ソフトウェアやプログラミング教材等に関する授業提案や研修支援等を実施した。・1人1台端末の故障及び破損への対応をメーカー等と連携して実施した。
4. 点検（分析）・評価	
○	1人1台端末及び通信ネットワークを整備し、大型ディスプレイ等を活用した授業が実施された。
○	小型マイコンボードを用いたロボットの操作や、金沢の魅力を文字、音声、アニメーション等で紹介するプログラミング教育を実施した。
○	学校の実情を踏まえ、段階的に新たなシステムを導入を進めたことで、教職員が新しい環境に慣れるための時間を確保し、負担を軽減できた。
評価	
A	
5. 今後の課題と方向性	
○	令和7年度末に向けて、1人1台端末の更新を計画的かつ着実に実施するとともに、端末の故障時等においても子供たちの学びを止めない観点から予備機の整備も進める。

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性2 確かな学力を育む教育に取り組みます
1. 事業名	
新規	ものづくり教育コンソーシアムの構築
2. 事業概要（目標、目的）	
○	市立工業高校と産業界・大学等との連携により、ものづくり教育を推進する。 技術革新の動向や産業のグローバル化等の社会ニーズの把握、産業界や大学等との連携によるものづくり教育の推進のため、市立工業高校にものづくり教育コンソーシアムを設置し、将来を担うものづくり人材の育成を図る。
3. 実績	
○	ものづくり教育コンソーシアム構築費（事業費：1,000千円） 6月：第1回会議（設立総会） 【委員】金沢大学、金沢工業大学、金沢美術工芸大学、 金沢建設業協会、石川県鉄工機電協会、石川県電気工事工業組合、 石川県情報システム工業会、金沢市立小学校長会・金沢市立中学校長会 【内容】金沢市立工業高等学校の現状、アンケート調査の実施等について協議 9月：アンケートの実施・分析 【対象者】①小学校高学年（5・6年生）、②中学校2年生、 ③小学校高学年及び中学校2年生の保護者、 ④本校生徒全学年、⑤本校生徒の過去6年間の就職先企業 10月：第2回会議 【内容】アンケート調査結果の共有、今後の具体的な事業に関する検討等 12月：フォーラム開催 【対象者】小学校1年生から6年生の親子 【内容】電子工作体験、建設体験等（※ 金沢建設業協会と共同開催） 2月：第3回会議 【内容】連携事業の成果と今後の課題等について協議
4. 点検（分析）・評価	
○	本校の教育理念である「金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材育成」の一層の充実のために金沢市立工業高等学校ものづくり教育コンソーシアムを設置し、ものづくり教育を推進した。 人材の育成・輩出を拡充するための課題を産学官で共有し、解決に向けた取り組みを協働で実施する枠組みを構築した。 コンソーシアムを契機として、金沢工業大学と課題研究等の向上や共同研究の実施等のものづくり教育の充実を図るために高大接続協定を締結した。また、委員の意見を踏まえ、産業団体と共に小学生を対象としたフォーラムを開催し、従来実施の体験教室の内容を拡充した。
	評価
5. 今後の課題と方向性	
○	技術革新が急速に進展する中で、ものづくり教育コンソーシアムの枠組みを活用し、社会動向や企業ニーズを常に把握しながら産業界や大学等との連携をより一層進めるとともに、本校の総合戦略を考慮しつつ入学志願者確保に向けた取り組みの充実を実施する。

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性3 健康や体力を育む教育に取り組みます
1. 事業名	
継続	安全・安心な学校給食の提供
2. 事業概要（目標、目的）	
○	児童生徒の健康維持のため、必要な栄養が確保された安全安心でおいしい学校給食を提供する。
○	「新たな学校給食調理場再整備計画」に基づき、南部共同調理場の建設と調理業務の委託化を推進する。
3. 実績	
○	献立年間計画及び食・献立に関する指導年間計画を作成した。
○	物価高騰に伴う給食用食材費の上昇分を当初予算（427,000千円）で措置し、保護者負担を据え置いた。
○	南部共同調理場建設事業を推進し、建設工事や外構工事を本格化した。 (事業費：2,018,486千円)
○	調理職員の確保や物資調達に時間を要することを見据え、南部共同調理場の給食調理業務を前倒しして契約し、委託化を進めた。
4. 点検（分析）・評価	
○	学校給食摂取基準に基づき、献立・食に関する指導の年間計画に沿った内容で給食を提供した。
○	食材費の上昇分を公費負担することにより、保護者の負担を増やすことなく現状の質を確保した給食を提供した。
○	南部共同調理場の建設事業者や関係機関と調整し、整備を進めた。
○	共同調理場の給食調理業務委託化による安定的な給食の運営が図られた。
評価	
A	
5. 今後の課題と方向性	
○	行事・指導重点献立を作成し、児童生徒が様々な地域の食文化に关心を持てるよう食育を推進する。
○	今後も適正な食材の選定と社会情勢等の動向を注視し、適切な給食費のあり方について検討を行い、安全安心な給食の提供に努める。また、パンフレットや動画を活用し、児童生徒や保護者等に学校給食の取組等を広く周知し理解を深めてもらう。
○	南部共同調理場の令和7年9月の供用開始に向けて、建設を着実に進める。
○	調理場の施設規模や業務遂行の状況、調理職員の状況を注視し、給食調理業務の委託化を進める。

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性3 健康や体力を育む教育に取り組みます								
1. 事業名									
継続	金沢市健康教育推進プランの実践								
2. 事業概要（目標、目的）									
<p>○ 健康教育をさらに推進するため、令和5年度に策定した「金沢市健康教育推進プラン2024」に基づき、家庭（地域）や三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）等と連携し、予防医学の観点から具体的な取組を実践する。</p>									
3. 実績									
<p>○ 健康教育アドバイザー派遣事業（事業費：243千円） 教職員、児童生徒及び保護者を対象に、大学教授等の専門家による研修を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ実施校数</td><td>15校</td><td>13校</td><td>19校</td></tr> </tbody> </table> <p>○ 受動喫煙防止事業（事業費：352千円） 全小・中学校において、受動喫煙防止講座を開催した。</p> <p>○ 【新】金沢市健康教育推進プラン2024実践推進事業（事業費：1,499千円） 7つの重点的健康課題のうち、「心の健康」「体力の増進」「歯・口の健康」を重点課題としたモデル校を指定し、教育活動や保護者に対する啓発の充実を図る。 (7つの重点的健康課題) ①心の健康（睡眠・生活リズム） ②体力の増進 ③けがの防止／病気の予防 ④食育 ⑤歯・口の健康 ⑥性に関する指導（生命尊重） ⑦喫煙・飲酒・薬物乱用防止 ※モデル校 ①医王山小・中 ②南小立野小・港中 ⑤富樫小</p>		年度	R4	R5	R6	延べ実施校数	15校	13校	19校
年度	R4	R5	R6						
延べ実施校数	15校	13校	19校						
4. 点検（分析）・評価									
<p>○ 全ての小中学校で金沢市健康教育推進プラン2024を着実に実践した。</p> <p>○ 心の健康実践モデル校では心の健康観察システムを活用した心と体の健康観察を実施し、個に応じた健康相談を早期に実施することができた。</p> <p>○ 体力の増進実践モデル校では体育・保健体育の授業を中心に、運動量の確保に努め、反復横跳びの数値が向上したり、授業に意欲的に取り組んだりする姿が見られた。</p> <p>○ 歯・口の健康実践モデル校では学校歯科医や歯科衛生士などの専門家と連携した保健指導を行い、保護者の協力のもと、丁寧に歯磨きをする児童が増加した。</p>									
評価									
5. 今後の課題と方向性									
<p>○ 学校、家庭（地域）、行政が連携して、今後とも積極的に7つの重点的健康課題に取り組む必要がある。</p> <p>○ モデル校の実践成果をすべての小中学校へ周知し、児童生徒一人一人の体力の向上及び心身の健康の保持増進を目指した学校環境の整備や保護者に対する啓発活動の推進を図る。</p>									

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性4 ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます
1. 事業名	
継続	歴史や伝統・文化等に関する教育の充実
2. 事業概要（目標、目的）	
○ 次世代の金沢の文化を担う中学生が、生の演奏を鑑賞し、金沢の伝統文化に触れることで、生徒の情操教育の充実を図るとともに、金沢の伝統文化に対する理解を深める。	
○ ふるさとや偉人に関する調べ学習に取り組み、その学習成果を発表することで、金沢のまちに愛着と誇りをもつ、まちづくりの創り手を育成する。	
3. 実績	
○中学校金沢の文化鑑賞事業（事業費：34,422千円）	
・オーケストラ鑑賞会（中学1年生対象） 約4,200人（34校）	
石川県立音楽堂において、オーケストラアンサンブル金沢により開催（6月）	
・金沢素囃子鑑賞会（中学2年生対象） 約4,100人（35校）	
石川県立音楽堂において、金沢素囃子保存会により開催（7月）	
・観能教室（中学3年生対象） 約4,200人（32校）	
石川県立能楽堂において、（公社）金沢能楽会により開催（7月）	
○ 金沢ふるさと学習推進事業（事業費：2,741千円）	
・金沢ふるさと学習の時間に活用する地域人材の派遣助成を行った。	
活用校数：45校、派遣人数：約511人、活用時間数：1,991時間	
○ 金沢ふるさと学習（偉人教育）推進事業（事業費：4,924千円）	
・小学校を対象に、偉人関連施設やゆかりの地等を見学する際のバス代を助成した。	
対象：全学年、活用校数：30校、バス台数：58台	
・中学生を対象に、金沢にゆかりのある現代の偉人を講師に招き、講演会を開催した。	
対象：全学年、実施校数：2校、講師：2名（篠井英介・米井裕一）※敬称略	
4. 点検（分析）・評価	
○ 本市中学校の全ての学年が本格的な鑑賞環境で、芸術や伝統文化に触れることができ、感想からは本物に触れて感性を揺さぶられた内容が多くみられ、好評であった。	
○ 地域人材活用への助成や施設見学バス代助成により、各校では地域の実情に応じた特色ある「金沢ふるさと学習」が積極的に進められた。	
評価 A	
5. 今後の課題と方向性	
○ 実施にあたっては、大勢の生徒の移動が伴うため、安全で円滑な移動に向けた工夫や検討を続ける必要がある。	
○ デジタル科の新設に伴い、小学校のふるさと学習にデータ活用探究学習を上乗せし、確実に実施する必要がある。	

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性5 特別支援教育の充実に取り組みます																												
1. 事業名																													
継続	特別支援教育の充実																												
2. 事業概要（目標、目的）																													
○ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒が、主体的に社会に参加できるよう、個々の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行うため、「金沢市特別支援教育指針（第2次）」に基づき、特別支援教育の一層の充実に取り組む。																													
3. 実績																													
○ 特別支援教育充実事業（事業費：179,429千円） ○ 学校看護師派遣事業（事業費：15,286千円）																													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">特別支援教育支援員の派遣の推移</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">学校看護師の派遣の推移</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">73校</td> <td style="text-align: center;">71校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">175人</td> <td style="text-align: center;">179人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">122,921時間</td> <td style="text-align: center;">123,688時間</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">5校</td> <td style="text-align: center;">6校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">10人</td> <td style="text-align: center;">13人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">7,258時間</td> <td style="text-align: center;">8,303時間</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>		特別支援教育支援員の派遣の推移	学校看護師の派遣の推移	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">73校</td> <td style="text-align: center;">71校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">175人</td> <td style="text-align: center;">179人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">122,921時間</td> <td style="text-align: center;">123,688時間</td> </tr> </tbody> </table>	区分	5年度	6年度	派遣校数	73校	71校	派遣人数	175人	179人	派遣時間	122,921時間	123,688時間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">5校</td> <td style="text-align: center;">6校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">10人</td> <td style="text-align: center;">13人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">7,258時間</td> <td style="text-align: center;">8,303時間</td> </tr> </tbody> </table>	区分	5年度	6年度	派遣校数	5校	6校	派遣人数	10人	13人	派遣時間	7,258時間	8,303時間
特別支援教育支援員の派遣の推移	学校看護師の派遣の推移																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">73校</td> <td style="text-align: center;">71校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">175人</td> <td style="text-align: center;">179人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">122,921時間</td> <td style="text-align: center;">123,688時間</td> </tr> </tbody> </table>	区分	5年度	6年度	派遣校数	73校	71校	派遣人数	175人	179人	派遣時間	122,921時間	123,688時間	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">5年度</th> <th style="text-align: center;">6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">派遣校数</td> <td style="text-align: center;">5校</td> <td style="text-align: center;">6校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣人数</td> <td style="text-align: center;">10人</td> <td style="text-align: center;">13人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">派遣時間</td> <td style="text-align: center;">7,258時間</td> <td style="text-align: center;">8,303時間</td> </tr> </tbody> </table>	区分	5年度	6年度	派遣校数	5校	6校	派遣人数	10人	13人	派遣時間	7,258時間	8,303時間				
区分	5年度	6年度																											
派遣校数	73校	71校																											
派遣人数	175人	179人																											
派遣時間	122,921時間	123,688時間																											
区分	5年度	6年度																											
派遣校数	5校	6校																											
派遣人数	10人	13人																											
派遣時間	7,258時間	8,303時間																											
4. 点検（分析）・評価																													
○ 日常生活並びに学習指導等の補助を行う特別支援教育支援員、校外活動等で一時的に支援する特別支援教育サポーター及び日常的に医療的ケアを行う学校看護師を派遣し、児童生徒個々のニーズに沿ったきめ細やかな支援の充実に取り組めた。 ○ 小・中学校の申し込みに応じて、巡回専門相談の充実を図ったほか、特別支援教育アドバイザーの派遣を行い、教職員の特別支援教育の理解や対応の向上に取り組むとともに、「特別支援教育」支援ソフトを導入し、特別支援教育実践拠点校である中央小学校芳斎分校・長町中学校芳斎分校及び通級指導教室設置の小・中学校における特別支援教育の充実を図った。																													
評価																													
A																													
5. 今後の課題と方向性																													
○ 令和6年4月に開設した特別支援教育を推進する特別支援教育サポートセンターにおいて、特別支援教育のさらなる充実に向けて、就学に向けた相談や読み書きが困難な児童生徒を対象にICTを活用した支援プログラムを実施する等、個に応じたきめ細やかなサポートの充実を図るとともに、学校における特別支援教育の体制及び授業力の向上等に取り組み、不登校、不適応の未然防止に取り組んでいく。																													

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性6 福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます																				
1. 事業名																					
継続	教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）																				
2. 事業概要（目標、目的）																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校における不登校、いじめ、社会的不適応、発達障害などの相談が増加し、多様化・複雑化・困難化してきている。それらに対応するため、学校及び関係機関と連携強化を図りながら、児童生徒、教職員、保護者等に対し、専門的な教育相談・支援を行うとともに、ICTを利活用した多様な支援に取り組む。 																					
3. 実績																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談事業（事業費:8,289千円） 教育支援センター「そだち」登録人数の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 (*1 集団支援 *2 個別支援)</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そだち Friendship *1</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>そだち Personal 富樫教室 *2</td> <td>78人</td> <td>90人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>そだち Personal 此花教室 *2</td> <td>67人</td> <td>58人</td> <td>61人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>148人</td> <td>151人</td> <td>150人</td> </tr> </tbody> </table>		区分 (*1 集団支援 *2 個別支援)	4年度	5年度	6年度	そだち Friendship *1	3人	3人	5人	そだち Personal 富樫教室 *2	78人	90人	84人	そだち Personal 此花教室 *2	67人	58人	61人	合 計	148人	151人	150人
区分 (*1 集団支援 *2 個別支援)	4年度	5年度	6年度																		
そだち Friendship *1	3人	3人	5人																		
そだち Personal 富樫教室 *2	78人	90人	84人																		
そだち Personal 此花教室 *2	67人	58人	61人																		
合 計	148人	151人	150人																		
4. 点検（分析）・評価																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害等児童生徒及び保護者を対象としたコミュニケーションスキル支援プログラムをオンラインを活用して実施するとともに、学校に特化したコミュニケーションスキル支援プログラムを中学校で実施し、社会的自立に向けた支援の充実を図った。 ○ 特別支援教育サポートセンターにおいて、読み書き困難の児童生徒を対象に、新たにICTを活用した支援プログラムを行い、個々に応じた学びの充実に取り組んだ。 ○ 「石川中央都市圏教育支援センター連絡会」及び「金沢市・不登校民間支援団体等連絡会」を開催し、職員の専門性の向上やフリースクールの理解につながる体験機会の創出に対する支援を行った。 																					
	評価 A																				
5. 今後の課題と方向性																					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害やいじめ等に係る不登校が急増し、多様化・複雑化・困難化していることから、引き続き、教育相談員の専門性及び相談技術の向上を図っていく。 ○ 外出することができず、家庭で多くの時間を過ごしている不登校児童生徒を対象に、社会的自立を図るため、新たにメタバースを活用した不登校支援体制の構築に着手する。 ○ 「石川中央都市圏教育支援センター連絡会」及び「金沢市・不登校民間支援団体等連絡会」を開催し、連携の推進を図り、さらなる不登校支援の充実に取り組んでいく。 																					

計画・方向性	学校教育基本計画 方向性6 福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます																																				
1. 事業名																																					
継続	児童生徒の就学援助																																				
2. 事業概要（目標、目的）																																					
○ 就学援助制度（始期：昭和31年度）	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等（※1）を支給し経済的な負担を軽減することにより、義務教育の円滑な実施を図る。																																				
○ 特別支援教育就学奨励費（始期：昭和29年度）	特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費等（※1）を支給し経済的な負担を軽減することにより、特別支援教育の普及奨励を図る。																																				
	（※1）学用品費、通学用品費、新入学学用品費、校外活動費、修学旅行費、 体育実技用具費、通学費、給食費、医療費																																				
3. 実績																																					
○ 保護者からの申請に基づき、法令・規則等に則り適正に審査したうえ、学用品費等を支給した。																																					
○ 新入学学用品費の補助単価を引き上げ、支援の充実を図った。																																					
(1)就学援助：小学校 54,060円 → 57,060円（令和6年度新入生から）																																					
中学校 60,000円 → 63,000円（令和5年度新入生から）																																					
(2)特学奨励：小学校 25,555円 → 28,530円（令和7年度新入生から）																																					
中学校 30,490円 → 31,500円（令和7年度新入生から）																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度 (※2)</th> <th>R6年度 (※2)</th> <th>R7年度入学 入学前支給分 (※3)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">就学援助費</td> <td>認定者数（人）</td> <td>4,739</td> <td>4,511</td> <td>4,154</td> <td>744</td> </tr> <tr> <td>認定率（%）</td> <td>14.14</td> <td>13.68</td> <td>12.69</td> <td>11.05</td> </tr> <tr> <td>事業費（千円）</td> <td>406,490</td> <td>380,996</td> <td>354,214</td> <td>45,156</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特学奨励費</td> <td>認定者数（人）</td> <td>295</td> <td>325</td> <td>367</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費（千円）</td> <td>11,724</td> <td>12,852</td> <td>15,245</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区分	R4年度	R5年度 (※2)	R6年度 (※2)	R7年度入学 入学前支給分 (※3)		就学援助費	認定者数（人）	4,739	4,511	4,154	744	認定率（%）	14.14	13.68	12.69	11.05	事業費（千円）	406,490	380,996	354,214	45,156	特学奨励費	認定者数（人）	295	325	367		事業費（千円）	11,724	12,852	15,245	
区分	R4年度	R5年度 (※2)	R6年度 (※2)	R7年度入学 入学前支給分 (※3)																																	
就学援助費	認定者数（人）	4,739	4,511	4,154	744																																
	認定率（%）	14.14	13.68	12.69	11.05																																
	事業費（千円）	406,490	380,996	354,214	45,156																																
特学奨励費	認定者数（人）	295	325	367																																	
	事業費（千円）	11,724	12,852	15,245																																	
（※2）就学援助費はR6能登半島地震による被災児童生徒除く （※3）入学前支給分は就学援助制度のみ																																					
4. 点検（分析）・評価																																					
○ 新入学学用品費の補助単価を引き上げ、入学時の学用品等購入にかかる保護者の経済的な支援の充実を図った。	評価		A																																		
5. 今後の課題と方向性																																					
○ 福祉等関係部局と連携・協力し、子供の貧困対策に引き続き取り組んでいくとともに、就学援助認定基準の維持に努めていく。																																					
○ 令和7年4月に開校する県立あすなろ中学校（夜間中学校）の生徒に対する新たな就学支援制度を制定し、就学困難な生徒への経済的支援を行っていく。																																					

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性7 家庭、地域と連携したひとつづくりに取り組みます												
1. 事業名													
継続	コミュニティ・スクールの推進												
2. 事業概要（目標、目的）													
○	学校が抱える固有の課題を地域と共有し、解決につなげるため、保護者や地域住民が学校運営に参画し、ともに知恵を出し合い、協働しながら子供たちの豊かな成長を支える仕組みであるコミュニティ・スクールの取組を推進する。												
3. 実績													
○	<p>○ コミュニティ・スクール推進事業（事業費：15,548千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校での実施（平成28年度1校、平成29年度14校）を踏まえ、平成30年度より市立全小学校へ、令和2年度より市立全小中学校へ拡充した。令和6年度は市立全小中学校で学校運営協議会が開催されている。 ・金沢市教育委員会から各校の学校運営協議会委員に対してアンケートを実施し、状況の把握に努めている。 <p>○ コミュニティ・スクールの取組をより一層周知し、市民の理解を深める契機とするため、全国コミュニティ・スクール連絡協議会及び文部科学省とともに、全国研究大会を金沢市で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和6年11月8日 場所：金沢市文化ホール ・参加者：985名（会場390名、ウェブ視聴595名） 												
4. 点検（分析）・評価													
○	<p>○ コミュニティ・スクールの取組に関するアンケート結果より一部抜粋 (令和7年1月～令和7年3月実施、対象者855名中677名より回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域に良い効果があると思う。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う</th><th>どちらかといえればそう思う</th><th>どちらかといえばそう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>63.8%</td><td>33.7%</td><td>1.2%</td><td>0.3%</td><td>1.0%</td><td>0.0%</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような効果があると思うか。※上位回答3つ 学校が身近に感じられる(82.3%)、地域や保護者の協力が進んだ(36.9%)、学校運営に意見が反映される(33.7%) ⇒ 97%以上の委員が良い効果があると捉えているとともに、82%以上の委員が学校を身近に感じられると回答している。 <p>○ 全国コミュニティ・スクール研究大会では、各地の事例発表を行った分科会や有識者を招いたパネルディスカッションの開催により、全国の先進的な取組に関する情報収集や他都市との意見交換を行うことができ、有意義な大会となった。また、保護者や地域への周知につなげることができた。</p>	そう思う	どちらかといえればそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	63.8%	33.7%	1.2%	0.3%	1.0%	0.0%
そう思う	どちらかといえればそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答								
63.8%	33.7%	1.2%	0.3%	1.0%	0.0%								
評価													
A													
5. 今後の課題と方向性													
○	今後も、地域や保護者への周知に一層努めるとともに各学校で積み重ねられた活動や先進市の好事例を共有していくなど、取組の充実につなげていく。												

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます																								
1. 事業名																									
継続	教職員の業務適正化の推進																								
2. 事業概要（目標、目的）																									
<p>○ 「金沢市立学校における教職員が本務に専念するための時間の確保に向けた取組方針」に基づき、教職員の業務適正化と時間外勤務時間の縮減を推進する。</p>																									
3. 実績																									
<p>○ 教員業務補助職員・学校サポーターの配置を継続した。 (令和6年度 教員業務補助38名・学校サポーター78名)</p> <p>○ 特別支援教育支援員の配置を継続した。 (令和6年度 176名)</p> <p>○ 学校司書の配置を拡充した。 (令和5年度 47名 → 令和6年度50名)</p> <p>○ ICT支援員によるサポート体制を強化した。 (令和5年度 月3回 → 令和6年度 月4回)</p> <p>○ 小中学校で保護者連絡システム、中学校で採点支援システムを導入した。</p>																									
4. 点検（分析）・評価																									
<p>○ 継続的な人的支援やシステムの導入等により、小中学校とも1カ月あたりの平均の時間外勤務時間は着実に減少しており、取組の成果が現れている。</p> <p><時間外勤務時間の平均（時間／月）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>36h36m</td> <td>35h06m</td> <td>33h15m</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>47h55m</td> <td>44h40m</td> <td>42h40m</td> </tr> </tbody> </table> <p><時間外勤務時間が月80時間を超える教職員の割合></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>1. 8%</td> <td>1. 3%</td> <td>0. 9%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>12. 0%</td> <td>10. 3%</td> <td>8. 8%</td> </tr> </tbody> </table>			令和4年度	令和5年度	令和6年度	小学校	36h36m	35h06m	33h15m	中学校	47h55m	44h40m	42h40m		令和4年度	令和5年度	令和6年度	小学校	1. 8%	1. 3%	0. 9%	中学校	12. 0%	10. 3%	8. 8%
	令和4年度	令和5年度	令和6年度																						
小学校	36h36m	35h06m	33h15m																						
中学校	47h55m	44h40m	42h40m																						
	令和4年度	令和5年度	令和6年度																						
小学校	1. 8%	1. 3%	0. 9%																						
中学校	12. 0%	10. 3%	8. 8%																						
5. 今後の課題と方向性																									
<p>○ 教育委員会や学校で行ってきた具体的な取組により、時間外勤務時間は減少傾向が続いているが、依然として月80時間を超える教職員が一定割合いる。</p> <p>○ 納付法等の改正により、教育委員会に対して業務量管理・健康確保措置実施計画の策定等が義務付けされたことから、計画の策定を行うとともに、教職員への意識改革や人的支援を継続して行い、教職員が本務に専念できる時間を確保していく。</p>																									

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます																																							
1. 事業名																																								
改	教職員研修の充実																																							
2. 事業概要（目標、目的）																																								
<p>○ 令和の日本型学校教育を担う「新たな教師の学び」を支えるため、デジタル技術を活用した研修推進体制を構築し、教職員研修の高度化を進めるとともに、教員育成指標に基づいた教職員に求められる資質・能力の育成に向けた教師の個別最適な学び、協働的な学びを実現する研修の充実に取り組む。</p>																																								
3. 実績																																								
<p>○ 教職員研修事業（事業費：1,534千円） ○ 【新】研修受講履歴記録システムの導入 ○ 【改】ICT活用指導力の向上を図る研修の拡充 ○ 令和6年度 教職員研修の状況</p>																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(1) 種別</th> </tr> <tr> <th>種 別</th> <th>講座数 (講座)</th> <th>受講者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人材育成</td> <td>65</td> <td>3,441</td> </tr> <tr> <td>授業力の向上</td> <td>32</td> <td>1,297</td> </tr> <tr> <td>重要課題への対応</td> <td>10</td> <td>393</td> </tr> <tr> <td>専門的知識・技能の向上</td> <td>29</td> <td>1,711</td> </tr> <tr> <td>個別支援型研修の充実</td> <td>22</td> <td>1,474</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>158</td> <td>8,316</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(2) 形態別</th> </tr> <tr> <th>区 別</th> <th>講座数 (講座)</th> <th>受講者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対 面</td> <td>93</td> <td>4,793</td> </tr> <tr> <td>オンライン</td> <td>65</td> <td>3,523</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>158</td> <td>8,316</td> </tr> </tbody> </table>		(1) 種別			種 別	講座数 (講座)	受講者数 (人)	人材育成	65	3,441	授業力の向上	32	1,297	重要課題への対応	10	393	専門的知識・技能の向上	29	1,711	個別支援型研修の充実	22	1,474	合 計	158	8,316	(2) 形態別			区 別	講座数 (講座)	受講者数 (人)	対 面	93	4,793	オンライン	65	3,523	合 計	158	8,316
(1) 種別																																								
種 別	講座数 (講座)	受講者数 (人)																																						
人材育成	65	3,441																																						
授業力の向上	32	1,297																																						
重要課題への対応	10	393																																						
専門的知識・技能の向上	29	1,711																																						
個別支援型研修の充実	22	1,474																																						
合 計	158	8,316																																						
(2) 形態別																																								
区 別	講座数 (講座)	受講者数 (人)																																						
対 面	93	4,793																																						
オンライン	65	3,523																																						
合 計	158	8,316																																						
4. 点検（分析）・評価																																								
<p>○ 教職員個々の研修申込、受講、履歴記録を一括管理可能なシステムを導入し、教師が自らの研修ニーズ、自分の強みや弱み、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割を踏まえながら、必要な学びを主体的に行っていけるよう研修推進体制の充実に取り組んだ。 ○ GIGAスクール構想のさらなる推進に向け、教職員一人一人のニーズやスキルに応じた学習用端末研修を拡充し、教職員全体のICT活用指導力の向上に取り組んだ。 ○ 「学校教育センターポータルサイト」をリニューアルし、特別支援教育に関わる学習指導案等の充実を図った。</p>																																								
評価																																								
A																																								
5. 今後の課題と方向性																																								
<p>○ 新しい時代が求める自学・共創の学びを通じて創造力を育む「新金沢型学校教育モデル」の浸透に向け、全国から先進的に研究・実践する著名な講師や新金沢型学校教育モデル構築委員等を招聘した教職員研修を新たに実施し、新金沢型学校教育モデルに基づいた実践的指導力の向上を図る研修の充実を図る。 ○ 全国教員研修プラットフォーム「Plant」（研修受講履歴記録システム）を活用した教職員自らの主体的な学びのマネジメントを推進する。</p>																																								

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
1. 事業名	
継続	学校施設整備の推進
2. 事業概要（目標、目的）	
○	安全・安心で質の高い学校施設をめざし、 児童生徒の教育環境の向上と施設の老朽化対策に向けた整備を推進する。
3. 実績	
○ 兼六小学校移転整備事業	(事業費：1,640,052千円) 新校舎への移転整備を本格化した。
○ 小中学校トイレ洋式化推進事業	(事業費：1,697,115千円) トイレの環境改善と洋式化に向けた整備を完了した。（小学校23校、中学校8校）
○ 小中学校特別教室等空調設備整備事業	(事業費：47,223千円) 特別教室等への空調設備の計画的な整備に向けて、実施設計に着手した。
○ 小学校長寿命化改良事業	(事業費：34,200千円) 大規模な校舎等改良工事の実施設計に着手した。（四十万小学校・西小学校）
○ 小中学校予防改修事業	(事業費：512,515千円) 校舎等の老朽化対策として予防改修を推進した。（小学校12校、中学校7校）
○ 教室環境改善事業	(事業費：34,801千円) 新JIS規格の児童生徒用机を導入した。（全中学1年生）
4. 点検（分析）・評価	
○	トイレの環境改善や洋式化、特別教室等への空調設備の整備、 新JIS規格机の導入など、児童生徒が安心して学べる教育環境づくりを推進した。
○	兼六小学校の新校舎への移転整備や四十万小学校、西小学校の長寿命化に向けた 実施設計など、老朽化対策を実施した。
評価	
A	
5. 今後の課題と方向性	
○	児童生徒の熱中症対策として、特別教室等への空調設備の計画的な整備を 推進するとともに、体育館の空調設備についてPFI手法を含めた 効率的な整備手法を検討する。
○	学校施設は築30年以上経過した建物が多く、老朽化が進んでいるため、 今後も計画的に校舎等の改築や長寿命化等に努める。
○	学校施設の整備には多額の費用が必要であることから、 国庫補助の活用による財源確保に努める必要がある。

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
1. 事業名	
継続	学校規模の適正化の推進
2. 事業概要（目標、目的）	
○ 今後の児童生徒数の予測を踏まえた、「新たな学校規模適正化に向けた方針」の早期の実現を図り、教育環境の充実に資する。	
○ 学校の適正規模	12～24学級
○ 新たな学校規模適正化に向けた方針（平成28年9月策定）の概要	
(1) 小学校の統合	①新堅町小学校と菊川町小学校の統合（H31済） ②馬場小学校と明成小学校の統合（R6済） ③犀川小学校と東浅川小学校の統合（H31済）
(2) 大規模校の解消	①大徳地区での小学校の新設と通学区域の見直し ②田上小学校の新設（移設）と通学区域の見直し（R5済）
(3) 中学校の規模適正化	①小将町中学校の中央地区への移設と通学区域の見直し（R5済） ②城南中学校と紫錦台中学校の統合
3. 実績	
○ 馬場小学校・明成小学校統合事業費	（事業費：462千円） 馬場小学校と明成小学校の統合に伴い、統合記念式典を実施した。
○ 三谷小学校・不動寺小学校統合事業費	（事業費：1,039千円） 令和7年度統合に向けて、両校児童の交流を図るため、バス運行事業を支援した。 三谷小学校閉校に向けて、記念誌作成などに係る閉校記念事業及び記念碑建立の補助を実施した。
4. 点検（分析）・評価	
○ 方針に基づく馬場小学校と明成小学校の統合、及び児童数減少のため三谷小学校が不動寺小学校へ統合することにより複式学級が解消され、これで本市立小学校における学校規模の適正化が図られた。	評価 A
5. 今後の課題と方向性	
○ 学校規模適正化の早期実現に向け、城南中学校と紫錦台中学校の統合、中山間地の中学校の規模適正化、及び校区重複型の中学校通学区域の見直しもあわせ、国の動向も注視しながら関係地域及び保護者等と具体的な協議を進めていく。	

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 全てのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます
1. 事業名	
新規	次期生涯学習振興基本計画の策定準備
2. 事業概要（目標、目的）	
○	現行の「金沢市生涯学習振興基本計画」（計画期間：平成28年度～令和7年度）が令和7年度末をもって終了することに伴い、市民意識調査等を実施するとともに、生涯学習を取り巻く現状分析及び課題の整理等を行い、次期計画の策定に繋げる。
3. 実績	
○	新生涯学習振興基本計画策定準備費（事業費：4,165千円） ①検討経過 5月 第1回社会教育委員会議（概要、策定スケジュールについて） 9月 第2回社会教育委員会議（現状分析、課題整理、市民意識調査内容検討） 10月 生涯学習に関する市民意識調査実施（～11月） 3月 第3回社会教育委員会議（現行計画振り返り、市民意識調査結果報告 等） ②生涯学習に関する市民意識調査の実施 調査期間：令和6年10月18日～11月8日 調査対象：金沢市内在住、18歳以上80歳未満の男女3,000人 抽出方法：住民基本台帳より無差別抽出 調査方法：〔送付〕郵送 〔回答〕郵送またはWeb 回収結果：765人（回収率25.5%）
4. 点検（分析）・評価	
○	生涯学習に関する市民意識調査により、個人の学びの現状、地域や社会活動の現状など、現代社会における市民の生涯学習に対する意識やニーズを把握することができた。
○	現行計画の取組状況の振り返りや生涯学習を取り巻く状況の変化の整理、市民意識調査結果の分析等を踏まえ、次期計画策定に向け、現状の課題や課題解決に向けて必要な視点等を整理することができた。
評価	
5. 今後の課題と方向性	
○	次期計画は、学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画を一本化した「金沢市教育振興基本計画」として策定することにより、新たな計画の策定に向け、十分な協議・検討を行い、本市の教育行政に関する施策を一体的・総合的に推進していく。

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます																		
1. 事業名																			
継続	地区公民館における持続可能な地域づくり																		
2. 事業概要（目標、目的）																			
○ 金沢SDGsの推進を通して、多様性を尊重し持続可能な地域づくりに向けた学習の機会の充実を図るため、自主的に活動する地域のSDGs学級の運営を支援する。																			
3. 実績																			
○ 各地区公民館で地域SDGs学級を開設した。（事業費：3,190千円） 持続可能な地域づくりをめざし、さまざまな学習方法を取り入れたプログラムを各学級が工夫して企画・立案し、年4回以上講座を実施した。 (委託料：1学級につき50千円、年6回以上実施する場合は20千円上乗せ)																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級数</td><td>53</td><td>51</td><td>53</td></tr> <tr> <td>委託料</td><td>50～70千円</td><td>50～70千円</td><td>50～70千円</td></tr> <tr> <td>決算額</td><td>3,134千円</td><td>3,050千円</td><td>3,190千円</td></tr> </tbody> </table>				年度	R4	R5	R6	学級数	53	51	53	委託料	50～70千円	50～70千円	50～70千円	決算額	3,134千円	3,050千円	3,190千円
年度	R4	R5	R6																
学級数	53	51	53																
委託料	50～70千円	50～70千円	50～70千円																
決算額	3,134千円	3,050千円	3,190千円																
○ 年度当初に地域SDGs学級担当者研修会を実施した。 実施日：令和6年4月11日（参加者：約60名） 内 容：開設事務手続き、事例発表（旭日公民館での地域SDGs学級）、意見交換会 事例発表者：旭日公民館主事																			
4. 点検（分析）・評価																			
○ 参加者からは、学習の際に金沢SDGsの目標を意識することで、生涯学習活動を通じた社会貢献の意識が高まったとの感想が寄せられた。																			
○ 次の学習へつながっていくような企画が、それぞれの地域住民が主体となって行われ、新たなコミュニティの形成や既存のコミュニティの更なる活性化につながった。																			
		評価	B																
5. 今後の課題と方向性																			
○ 年齢や性別を問わず、より多くの方に参加してもらうため、各学級の開設状況や要望等を踏まえ、各学級の担当者に向けた研修会の実施やSDGsに関する適切な情報提供を行うなど、支援体制の充実に努める。																			

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
1. 事業名	
改	家庭教育支援の推進
2. 事業概要（目標、目的）	
<p>○ 家庭の教育力向上のため、家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」の周知を図り、その実践を支援するとともに、3つの柱で体系化された「金沢市家庭教育推進プログラム」に沿った各種事業を展開する。</p>	
3. 実績	
<p>○ 学習機会の効果的な提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭版、企業版「親の学び場」開催事業等（事業費：6,010千円） 家庭教育指針の実践を進めるため、家庭版「親の学び場」の研修会や「家庭教育『8つのすすめ』実践セミナー」などを実施した。 <p>○ 家庭教育に関する情報提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育啓発事業等（事業費：2,707千円） 家庭教育指針の実践と浸透を図るため、入学説明会等に合わせハンドブックを配付したほか、新たな情報発信ツールとして、インスタグラムを活用した『8つのすすめ』の動画発信を行い、家庭教育の啓発に努めた。 <p>○ 地域、家庭、学校との連携による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携家庭教育支援事業（事業費：18,245千円） 60校区（小学校47校区、中学校13校区）において、地域と学校が活動方針や目標を共有しながら連携・協働して子供を育む地域学校協働活動を実施するほか、父親会活動を支援する「かなざわ父親ねっと」の情報交換会等を行なった。 	
4. 点検（分析）・評価	
<p>○ 各種研修会やセミナーにおいて対面参加を基本としつつ、仕事や育児で多忙な保護者も参加しやすいようオンラインも併用し、学びの機会を拡充した。</p> <p>○ 事業効果の周知により、地域学校協働活動の実施校区が、事業開始初年度である平成29年度の19校区から60校区に拡大した。（前年度からは5校区増加）</p>	
評価	
5. 今後の課題と方向性	
<p>○ 家庭教育に関する指針の認知度向上にむけ、家庭教育推進プログラムの着実な実践を推進する。</p> <p>○ 多忙な保護者が気軽に家庭教育に関する情報にアクセスできるよう、SNSの効果的な活用を含め、情報発信の充実を図る。</p> <p>○ 地域ぐるみでの家庭教育を支援する、地域学校協働活動については、コーディネーター育成研修の充実を図るとともに、実施校区のさらなる拡大を図り、活動を通して親子や学校、地域、保護者間の繋がりを深め、家庭での教育力の向上に努める。</p>	

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます	
1. 事業名		
継続	金沢子ども読書推進プランの推進	
2. 事業概要（目標、目的）	<p>○ 読書活動を通じて、子供が心豊かに健やかに成長することを願い、全ての子供があらゆる機会と場所において自ら進んで読書活動を行うことができるよう、家庭、学校等、地域、行政、企業の各主体が自己評価を行いながら、一体的に取り組みを進める。</p>	
3. 実績	<p>○ 「金沢子ども読書推進プラン2024（第五次）」の具現化（事業費1,895千円）</p> <p>新たに策定した「金沢子ども読書推進プラン2024（第五次）」（令和6～10年度）に基づき、子供の読書活動を推進する各種事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化が学べる「かなざわ偉人物語」（全8巻）のうち、第1～3巻を電子書籍化し、金沢市電子図書館に掲載した。 (第4～6巻は令和7年度、第7・8巻は令和8年度に電子書籍化を予定) ・除籍した絵本等を市立保育所に約1,000冊提供した。 ・未就学児用・小学生用の2種類の読書手帳を作成した。 ・体験学習等を実施して親子での図書館来館のきっかけとなるイベントを開催した。 <p>○ はじめて絵本事業の実施（事業費4,429千円）</p> <p>乳幼児期から絵本を介して親子の絆をはぐくむ子育てを支援するため、福祉健康センターでの3か月児健康診査時に、希望絵本を1冊配付した。 (令和6年度配布実績：2,547人 センター配布率99.8%)</p>	
4. 点検（分析）・評価	<p>○ 行政、地域団体、小・中学校等関係団体において、計画目標ごとに主体的に取り組むとともに、連携・協力し、子供読書活動の推進を図ることができた。</p> <p>○ 玉川こども図書館では、親子でおでかけ図書館イベント等を開催して、利用促進に努めたことにより、来館者数が前年度に比べ約4,900人増加し、多くの市民が親子で楽しみながら読書に親しむ家庭読書への理解を深めることができた。</p> <p>○ 乳幼児の親子を対象とした事業により、家庭での読み聞かせの大切さを周知することで読書習慣の形成につなげることができた。</p>	
5. 今後の課題と方向性	評価	A
○ プランを着実に実践し、各関係団体等と連携・協力して意見交換や情報提供を積極的に行うとともに自己評価を分析し、子供の読書活動推進に取り組んでいく。		

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性3 市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます																										
1. 事業名	継続 地域コミュニティ活性化推進事業の充実																										
2. 事業概要（目標、目的）	<p>○ 金沢のコミュニティを支える基盤である地域の連帯感や愛着心を深めるため、地域の特性を活かした交流事業の企画運営を、地域コミュニティの中核である地区公民館に委託して実施する。（始期：平成12年度、対象：地区公民館（複数館での連携実施可）</p>																										
3. 実績	<p>○ 地域コミュニティ活性化支援事業（事業費：9,280千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域交流事業（委託料：100千円上限 ①②併用の場合は総額上限200千円） <ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史やまちづくり、文化伝承などをテーマに実施 ②子ども交流事業（委託料：150千円上限） <ul style="list-style-type: none"> 文科省「放課後子供教室」事業として実施（国補助1／3） 地域の人材を活用した様々な体験活動を通じた、放課後及び休日の子供の居場所づくり ③親子ふれあい事業（委託料：200千円上限）（R4～） <ul style="list-style-type: none"> 地域の団体との連携を図り、親子が気軽に公民館に来館する「きっかけ」となる体験教室や講座等の実施 <p>※①②の事業において、児童館・児童クラブと連携して行う場合は100千円を上限として上乗せ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①地域交流事業数</td><td>48</td><td>50</td><td>52</td></tr> <tr> <td>②子ども交流事業数</td><td>(1)8</td><td>(2)10</td><td>(2)10</td></tr> <tr> <td>③親子ふれあい推進事業数</td><td>6</td><td>13</td><td>15</td></tr> <tr> <td>児童館・児童クラブ連携事業数</td><td>12</td><td>14</td><td>14</td></tr> <tr> <td>委託料（千円）</td><td>7,876</td><td>8,769</td><td>9,280</td></tr> </tbody> </table> <p>※（）は北陸学院大学との連携数</p>				R4	R5	R6	①地域交流事業数	48	50	52	②子ども交流事業数	(1)8	(2)10	(2)10	③親子ふれあい推進事業数	6	13	15	児童館・児童クラブ連携事業数	12	14	14	委託料（千円）	7,876	8,769	9,280
	R4	R5	R6																								
①地域交流事業数	48	50	52																								
②子ども交流事業数	(1)8	(2)10	(2)10																								
③親子ふれあい推進事業数	6	13	15																								
児童館・児童クラブ連携事業数	12	14	14																								
委託料（千円）	7,876	8,769	9,280																								
4. 点検（分析）・評価	<p>○ 地域交流事業と親子ふれあい事業については、事業効果が認知され、実施館の増加につながった。</p> <p>○ 各地区公民館で、地域ごとに特色ある講座や研修活動を企画実施することから、地域の連帯感や愛着心を深め、地域のコミュニティの活性化に資することができた。</p>																										
5. 今後の課題と方向性	<table border="1"> <tr> <td>評価</td><td>B</td></tr> </table> <p>○ 子ども交流事業については、大学等との継続的な協力、運営方法の改善や企画内容の充実を図り、参加者数の拡大につなげるとともに、子供から高齢者まで気軽に公民館に来館する「きっかけ」となるよう、未実施館へ事業実施の働きかけを行うなど、次年度以降の充実・拡大に努めていく。</p>			評価	B																						
評価	B																										

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性3 市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます																																																
1. 事業名																																																	
継続	ボランティアによる図書館運営・企画への参加																																																
2. 事業概要（目標、目的）																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民がボランティアとして活動できる場を提供し、市民と図書館の相互理解を促進し、市民との協働による図書館サービスの充実を図るとともに、若年層の協働意識を育成する。 																																																	
3. 実績																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費 957千円 ○ ボランティア活動実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center; width: 30%;">活動内容</th><th colspan="2" style="text-align: center;">令和5年度</th><th colspan="2" style="text-align: center;">令和6年度</th></tr> <tr> <th style="text-align: center;">登録者数</th><th style="text-align: center;">活動延べ人数</th><th style="text-align: center;">登録者数</th><th style="text-align: center;">活動延べ人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">配架・書架整理・本の修復</td><td style="text-align: center;">128</td><td style="text-align: center;">1, 593</td><td style="text-align: center;">110</td><td style="text-align: center;">1, 443</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">おはなし会、工作、対面朗読等</td><td style="text-align: center;">292</td><td style="text-align: center;">937</td><td style="text-align: center;">267</td><td style="text-align: center;">966</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">ライブラリー・パートナー</td><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">76</td><td style="text-align: center;">10</td><td style="text-align: center;">75</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">ユースライブラリーボランティア</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">17</td><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">25</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td><td style="text-align: center;">430</td><td style="text-align: center;">2, 623</td><td style="text-align: center;">392</td><td style="text-align: center;">2, 509</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学との連携による学生の活動 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 25%;">図書館</th><th style="text-align: center; width: 25%;">連携大学</th><th style="text-align: center; width: 50%;">内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">玉川こども図書館</td><td style="text-align: center;">北陸学院大学</td><td style="text-align: center;">おはなしと遊びの会やビブリオトークを開催</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: bottom;">金沢海みらい図書館</td><td style="text-align: center;">金沢星稜大学</td><td style="text-align: center;">「遊ぶ」おはなし会とギャラリー展示を実施</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: bottom;"></td><td style="text-align: center;">金沢大学</td><td style="text-align: center;">怪談にちなんだ朗読会と工作教室を実施</td></tr> </tbody> </table>				活動内容	令和5年度		令和6年度		登録者数	活動延べ人数	登録者数	活動延べ人数	配架・書架整理・本の修復	128	1, 593	110	1, 443	おはなし会、工作、対面朗読等	292	937	267	966	ライブラリー・パートナー	8	76	10	75	ユースライブラリーボランティア	2	17	5	25	合計	430	2, 623	392	2, 509	図書館	連携大学	内容	玉川こども図書館	北陸学院大学	おはなしと遊びの会やビブリオトークを開催	金沢海みらい図書館	金沢星稜大学	「遊ぶ」おはなし会とギャラリー展示を実施		金沢大学	怪談にちなんだ朗読会と工作教室を実施
活動内容	令和5年度		令和6年度																																														
	登録者数	活動延べ人数	登録者数	活動延べ人数																																													
配架・書架整理・本の修復	128	1, 593	110	1, 443																																													
おはなし会、工作、対面朗読等	292	937	267	966																																													
ライブラリー・パートナー	8	76	10	75																																													
ユースライブラリーボランティア	2	17	5	25																																													
合計	430	2, 623	392	2, 509																																													
図書館	連携大学	内容																																															
玉川こども図書館	北陸学院大学	おはなしと遊びの会やビブリオトークを開催																																															
金沢海みらい図書館	金沢星稜大学	「遊ぶ」おはなし会とギャラリー展示を実施																																															
	金沢大学	怪談にちなんだ朗読会と工作教室を実施																																															
4. 点検（分析）・評価																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各図書館で、多種類のボランティア活動が行われ、延べ2, 509人の市民が図書館活動に能動的に関わる機会を提供することができた。 ○ 市民協働型ボランティアが「金沢ライブラリー・パートナー」という自立した団体として、主体的に図書館事業へ参画し図書館の利用促進に取り組んだ。 ○ 高校生、大学生との協働事業により、若年層の図書館利用を促した。 																																																	
評価	B																																																
5. 今後の課題と方向性																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、図書館事業への市民参画を促し、利用者の視点を取り入れた多様なサービスを創出していく。 ○ 幅広い世代の市民が図書館のボランティア活動に興味関心を抱き、参加できるよう、活動について一層の周知を図る。 																																																	

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学习の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に取り組みます
1. 事業名	
継続	地区公民館の施設等整備
2. 事業概要（目標、目的）	
○ 地元からの要望に応え、地区公民館の建設及び改修を行うことで、生涯学習と地域コミュニティの拠点機能の充実を図る。	
○ 施設等整備に関する負担ルール	
建設費（既存建物改修含む）…原則 市3／4 地元1／4	
※用地費についてもルール有り	
※修繕・備品購入 市3／4（世帯数による軽減措置あり）	
※木質化改修 市10／10	
3. 実績	
○ 地区公民館施設整備事業（事業費：63,259千円）	
・施設修繕 41館、70件（松ヶ枝公民館空調設備更新工事等）	
・バリアフリー改修 5館、5件（湯涌公民館トイレバリアフリー化工事等）	
・木質化改修 1館、1件（西南部公民館大ホール床、腰壁改修工事）	
・備品整備 6館、7件（浅野町公民館会議机購入等）	
○ 旧芳斎公民館解体事業（事業費：7,221千円、R7繰越明許10,845千円）	
・旧芳斎公民館の解体工事に着手（令和7年度完了）	
4. 点検（分析）・評価	
○ 各公民館において、金沢方式の負担ルールにより施設整備が図られ、生涯学習環境を充実させることができた。	
○ 芳斎公民館は計画どおり令和6年4月に供用開始し、生涯学習環境の充実が図られた。	
	評価 A
5. 今後の課題と方向性	
○ 地区公民館は地域の生涯学習の拠点となる施設であることから、引き続き地域と連携しながら、安全・安心な施設の整備、学習環境の充実に取り組んでいく。	
○ 金沢方式の見直しに伴う公民館建設要望、修繕要望が増大することが見込まれることから、地元との調整を丁寧に行いながら施設整備の充実に努めていく。	

生涯学習振興基本計画 方向性 4	
計画・方向性	学習の拠点整備・情報システムの活用など生涯学習環境の充実に取り組みます

1. 事業名

改 キゴ山宇宙教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 金沢市宇宙教育推進計画2021に基づき、小学生からシニア世代まで幅広い世代を対象とした宇宙教育プログラムを充実するとともに、国立天文台やJAXAとの協定に基づく宇宙教育を行い、宇宙教育を通した創造性豊かな子供の育成及び市民の生涯学習の振興を図る。

3. 実績

- 宇宙教育の推進（事業費：2,368千円）

		4年度		5年度		6年度	
金沢 宇宙塾	キンダー、キッズ、ジュニア	5回	343人	4回	247人	5回	362人
	ファンダメンタル・テクニカル	7回	140人	5回	103人	5回	104人
	おとなの宇宙塾	8回	115人	8回	65人	4回	32人
まちなかスターウォッチング		1回	100人	一	一	1回	300人
金曜日は星見の日		21回	606人	21回	771人	22回	779人
アストロスクール		R5～開始		4回	268人	4回	222人
起業家育成講座		R5～開始		3回	82人	3回	62人
宇宙産業セミナー		R5～開始		1回	52人	1回	60人
星のインタークリー養成講座		R6～開始			4回	11人	
お泊りスターウォッチング		R6～開始			1回	80人	
地域で集まれ天体観望会		R6～開始			2回	510人	
合計		42回	1304人	46回	1588人	52回	2522人

- 「月の石」等常設展示・天文学習棟展示リニューアル事業（事業費：2,133千円）
 - ・【新】月の石等サテライト展示設計

4. 点検（分析）・評価

- 金沢市宇宙教育推進計画に基づき、継続事業を着実に実施するとともに、新たに学校や地域と連携して天体観望会を実施するなど、幅広い世代に宇宙・天文への興味、関心を高めてもらうことができた。
- 宇宙産業に携わる民間企業等と連携して講座を開催し、社会活動につながる教育にも取り組んだことで、子供たちに充実した学びの機会を提供できた。
- 令和7年10月からの教育プラザ富樫内の「月の石」サテライト展示に向け、魅力ある展示設計に取り組んだ。

評価	A
----	---

5. 今後の課題と方向性

- 宇宙教育の更なる推進のため、より身近に本格的な宇宙に接することが出来る環境として、「月の石」等の常設展示を核とした施設の充実を図っていく。
- 今後も国立天文台やJAXAと連携し、子供たちに夢や希望を育み、誰もが宇宙に关心を持てるような環境づくりを進めていく。

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など生涯学習環境の充実に取り組みます
--------	--

1. 事業名

改 キゴ山里山教育・里山交流の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 人里に隣接した山である里山での生きる教育と世代間の交流を推進するためキゴ山の豊かな自然を活用した様々な体験活動や自然保護活動プログラムを実施する。
(始期：平成26年度)

3. 実績

- 里山教育推進事業（事業費：2,340千円）

	4年度		5年度		6年度	
冒険王	2回	50人	1回	35人	1回	35人
親子里山体験塾	6回	176人	9回	154人	6回	140人
市民里山教室	7回	92人	5回	75人	5回	75人
親子自然体験塾	3回	137人	3回	163人	3回	152人
ネイチャーワールド	R6～開始				2回	46人
合計	18回	455人	18回	427人	17回	448人

学生ボランティア参加実績

R5 2事業 8人

R6 3事業 14人及び1団体

4. 点検（分析）・評価

- 小学4年生から中学3年生を対象とした、キゴ山の自然を体験するネイチャーワールドを新たに実施し、子どもたちに貴重な里山での学習の機会を提供することができた。
- 各事業に学生ボランティアが参加し、自然体験活動を通じて里山教育への理解を深めてもらうなど、里山教育の創り手育成のきっかけとして取り組むことができた。
- 冒険王、ネイチャーワールドでは送迎バスを用意したこと、交通手段のない参加者（小学4年生～中学3年生）にも参加しやすい環境を提供できた。

評価

B

5. 今後の課題と方向性

- 里山教育のプログラムにSDGsの視点を組み入れるとともに、里山教育の創り手を育成していく。
- 幼児期から里山での教育ができるような自然体験活動プログラム等の開発を行い、キゴ山における全世代対象の交流を推進していく。

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に取り組みます						
1. 事業名							
継続	図書館機能の充実						
2. 事業概要（目標、目的）							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の高度情報化、市民ニーズの多様化に合わせ、幅広い分野の資料を系統的広範囲に収集するとともに、資料や情報を有効活用し市民の課題解決を支援するため、図書館機能の充実を図る。 ○ デジタル化の進展に応じた図書館サービスを導入し、利用者の利便性向上に努める。 							
3. 実績							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 金沢市図書館蔵書数 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> <tr> <td>1,688,126冊</td> <td>1,720,498冊</td> <td>1,747,464冊</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電子図書館（事業費 3,951千円） <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ数（令和7年3月末）：2,799タイトル ・貸出点数：11,437点 ○ 泉野図書館での自動貸出機の導入（事業費 858千円） <p style="padding-left: 20px;">泉野図書館において、利用者自身で貸出処理できる自動貸出機を、令和6年12月に導入した。</p> ○ 玉川図書館の建築的な価値に配慮した改修工事の実施設計が完了 <p style="padding-left: 20px;">国内外から評価の高い現代公共建築を継承していくための、建築的な価値に配慮した改修に向け、実施設計が完了した。</p> 		令和4年度	令和5年度	令和6年度	1,688,126冊	1,720,498冊	1,747,464冊
令和4年度	令和5年度	令和6年度					
1,688,126冊	1,720,498冊	1,747,464冊					
4. 点検（分析）・評価							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間約5万冊の資料を受け入れ整理し（市民1人あたり3.7冊の蔵書）、市民の読書環境の基盤づくりを推進した。 ○ 電子図書館事業により、時間や場所に制約を受けて、障害がある方等にも利便性が高い読書環境を市民に提供した。 ○ 泉野図書館での自動貸出機の導入により、利用者サービスの向上と資料管理業務の効率化を実現した。 							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">評価</td> <td style="width: 40%;">A</td> </tr> </table>		評価	A				
評価	A						
5. 今後の課題と方向性							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の学習拠点、情報拠点として、今後も蔵書の充実に努めるとともに、利便性やサービスの向上を推進し、読書環境の整備を進める。 ○ 玉川図書館の改修工事については、建築的な価値に配慮するとともに、利用者の利便性向上を考慮して実施し、図書館機能の向上を図る。 ○ 今後も、図書館サービスのデジタル化を計画的に進め、更なる利用者サービスの向上や業務改善を推進していく。 							

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性5 金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます
1. 事業名	
継続	かなざわ市民アカデミーの開催
2. 事業概要（目標、目的）	
○	金沢が誇る地域文化や新たなジャンルからテーマを取り上げ、段階的に学ぶことができる「かなざわ市民アカデミー」を開催し、学びと「出会い」「深め」「広げる」の3ステップで、生涯にわたる自学を促進する。
3. 実績	
○	かなざわ市民アカデミー開催事業（事業費：2,004千円） <ul style="list-style-type: none"> ①講演会「成功へのプロセス～地域を元気にするスポーツのチカラ～」 <ul style="list-style-type: none"> 開催日 令和6年10月22日（火） 講師 福田 正博 氏（サッカー解説者・元サッカー日本代表） 実績 来場受講者251人、ライブ配信受講者5人 ②映像講座（市公式YouTubeチャンネルで公開中） <ul style="list-style-type: none"> ・「金沢市ホームタウンチーム紹介～スポーツ観戦を日常に ホームタウンチームを応援しよう～」 ・「モルックで遊ぼう！」 ③自学促進情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関連したイベントや行事等をまとめたリーフレット作成し、講演会の参加者へ配布。 ・併せて、かなざわ生涯学習情報「まなびの広場」にも情報を掲載し、随時、情報を更新。 ・市立図書館各館においてテーマ関連書籍・資料を展示。 <p>（令和6年10月1日～11月24日）</p>
4. 点検（分析）・評価	
○	来場型の講演会に加えて、録画配信や映像講座の配信、図書館での資料展示等、テーマに対して多面的にアプローチし、時と場所を選ばない学びの機会を提供することができた。
○	リーフレットを作成し、自主的な学びに対する意欲高揚に寄与した。
	評価 B
5. 今後の課題と方向性	
○	市政の重点や学びのニーズに対応したテーマや講師の選定に努めるとともにオンラインによる配信や映像講座の周知と利用拡充を図っていく。

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性5 金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます
1. 事業名	
改	地域を学ぶ事業の実施
2. 事業概要（目標、目的）	
○ 金沢市図書館各館の特色ある資料や建物の魅力等を活かした主催事業等を実施することにより、市民の図書館への興味を喚起し地域理解を深める。	
3. 実績	
○ 玉川図書館 （事業費：931千円） <ul style="list-style-type: none"> ・金沢ふるさと偉人館と連携し、偉人の記念碑に着目した講演会と関連展示を実施した。（講演会参加人数 8人） ・【新】藩政期における人々の動きをテーマにした特別展を開催した。 	
○ 泉野図書館 （事業費：1,265千円） <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者や公共施設と連携した、地域の施設を巡るスタンプラリーや、室生犀星記念館の学芸員による講演会と関連展を実施した。 (スタンプラリー参加人数 635人、講演会参加人数 32人) ・鈴木大拙館と連携し、鈴木大拙及び大拙と交流のあった西田幾多郎や柳宗悦を取り上げた講演会と企画展を開催した。（講演会参加人数 29人） 	
○ 金沢海みらい図書館 （事業費：478千円） <ul style="list-style-type: none"> ・【新】近代の西部地区にあった郊外遊園地涛々園（とうとうえん）等をテーマに、レクチャートークと関連展を実施した。（レクチャートーク参加人数 29人） ・海上保安庁と連携した体験型セミナーや、職人大学校と連携した親子で木のイスを作るものづくりセミナーを実施した。 (体験型セミナー参加人数 212人、ものづくりセミナー参加人数 32人) 	
4. 点検（分析）・評価	
○ 各館の資料の特色や建物の魅力等を活かした事業を実施し、郷土の歴史や偉についての理解を深める機会とともに、市民の図書館への興味を喚起した。	
○ 多様な施設、機関と連携することにより、魅力的な事業を実施することができた。	
評価	
5. 今後の課題と方向性	
○ 今後も、各館の特色ある資料や建物の魅力を活かし、新しい題材の開発に努めながら様々な団体等と連携した事業を実施することにより、地域への理解を深めるとともに、図書館利用の促進につなげていく。	

用語等說明

頁	用語	説明
P15	校内教育支援センター支援員	いじめ・不登校への対策として、小・中学校に配置する非常勤的会計年度任用職員。カウンセリングのほか、別室登校児童生徒への学習支援を実施。心と学びの支援員がR6から名称変更。
	心の絆サポーター	教育相談の経験を有する者等に教育委員会が委嘱。不登校や問題行動等で、学校だけでは対応・指導改善が困難なケースに対し、学校や教育委員会の要請に応じて対応する。必要に応じて児童相談所・警察・家庭裁判所等との連携役を担う。
	WEBQU	株式会社WEBQU教育サポートが運営するシステムで、児童生徒が1人1台端末を用いてWEB上で回答し、学級に対する満足度や学習に対する意欲、学級集団としての雰囲気、今後の学級指導の方向性等を把握するもの。不登校やいじめの未然防止、早期発見・早期対応を図り、好ましい人間関係づくりを目指すために実施。
P27	PFI手法	民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法。
	小学校	金沢市立小学校
	中学校	金沢市立中学校
	小学生	金沢市立小学校の児童
	中学生	金沢市立中学校の生徒
	市内の小学校	金沢市内にある小学校
	市内の中学校	金沢市内にある中学校
	市内の小学生	金沢市内にある小学校の児童
	市内の中学生	金沢市内にある中学校の生徒